

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4590600088 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 立縫会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 静妙庵 | ユニット名 | 静けき邸 |
| 所在地 | 宮崎県日向市美々津町4084番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年5月7日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年7月22日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kainokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kani=true&ijiyosyoCd=4590600088-00&PrefCd=45&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階 |
| 訪問調査日 | 平成26年5月27日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海や山に囲まれ、静かな環境の中で、落ち着いてシニアライフステージを送っていただいています。街並みから少し離れていますが、地域の運動会や祭りに参加したり、同敷地内の特養やデイサービスの行事に参加することが地域との交流になっています。また、住み慣れた地域の方や知人、兄弟に会える機会となっています。敷地内を1周散歩がてら歩行訓練され、園庭の畑に寄って野菜などの収穫をしたり、草取りをしたりと楽しんでいます。施設内でも1周歩行訓練でき、隣の邸の方との会話を楽しまれたり、お互いの状態観察をして、声を掛け合っています。散髪は、外部からきていただき施設内でパーマやカラーができることで利用者の方の負担も減り、大変喜ばれています。敬老会や夏祭りは、併設の特養と合同で行い、家族に参加していただき、一緒に食事を楽しんでいただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3年目を迎えた新しいグループホームである。管理者・職員は、利用者一人ひとりの介護支援を充実させようと、24時間生活変化シートなどを取り入れ工夫している。敷地内に、同法人の特別養護老人ホームもあり、デイサービスに通っている知人や地域の人との交流もある。また、日々の介護支援の質を高めようと、職員へ日々の振り返りアンケートを実施し、利用者一人ひとりに寄り添う介護支援に向け、努力・工夫している。利用者が、敷地内の法人の畑で収穫をしたり、ホームの中庭での花、野菜作りも楽しめるように配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 静けき邸 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 海や山に囲まれ、慣れ親しんだ地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、理念を作りあげている。 | 「その人らしくシニアライフステージ」をもって日々過ごせるように、管理者・職員は、理念の共有に努めている。実践として音楽、パズル、しこう品など、利用者の思いをくみ取り、日々支援している。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日常的な交流はできていないが、この地区の面会者との交流や地域の病院、商店でのコミュニケーション、地区の運動会や特養での保育園との交流会に参加している。 | 利用者は、地域の小学校や地域の運動会に職員と共に参加している。また、敷地内の特別養護老人ホームと日常的に交流があり、訪れる地域の人や保育園児とも交流がある。今後、お茶会なども予定しており、地域との交流に工夫している。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 法人で地域に向けて勉強会や研修会を行っており、認知症の利用者の生活や支援方法などを知っていただく機会となっている。民生委員や地域の方の施設見学も随時行っている。 | | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、活動内容やサービス内容について写真などを使って報告し、話し合いや意見をいただき、サービスの向上に活かしている。 | 運営推進会議には、地域の民生委員や市の担当者も出席している。出席者から出された意見を、日々の支援に生かしている。例として、日々の取組や活動の写真をアルバムにして、玄関ホールに置いている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市町村担当者に運営推進会議に出席していただき、事業内容について報告したり、相談を行いながら、協力関係を築く努力をしている。 | 運営推進会議の中で、認知症ケアの研修、発表を行っており、市の担当者と利用者の状況の共有を図ったり、悩んだ時には担当者に電話で相談するなど、連携を取っている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての研修会に参加し、正しく理解している。玄関の施錠も見守り強化やセンサーを取り付け、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束の弊害について、研修会にも参加し理解している。日々のケアでは、利用者の見守りに配慮がなされ、職員間で共有認識が図られている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 管理者と職員は、虐待防止関連法について研修に参加することで正しく理解し、虐待の早期発見や虐待防止に努めている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 静けき邸 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|---|--|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在は、利用していない。日常生活自立支援事業や成年後見人制度については、研修を重ね、今後活用していきたい。 | | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時は、家族にわかりやすく説明し、疑問や気になることをいつでも質問しやすい関係作りに努め、確認を行っている。 | | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族や外部の方への施設での活動や取り組みがわかるように、定期的に「静妙庵便り」を発行している。また、面会時や運営推進会議にて要望や意見をいただき、信頼関係を大切にしている。 | | 利用者の日々の活動を、ご家族に手紙として送り、来訪時にも話しやすい雰囲気作りに留意している。出された意見や要望を、日々の支援に生かし努力している。 | 家族の来訪時や家族対応の受診時などの機会を捉え、職員間の情報共有をさらに期待したい。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回の部署会議や朝のミーティングなどで、職員の意見や提案を聞く機会を設けたり、通常業務の中でも気づいたときに発言できる雰囲気作りに努めている。 | | 定期的な部署会議や日々の業務の中で、職員の気付きを発言できる雰囲気作りに留意している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 資格取得の為の支援や面談を定期的に行い、職員の向上心を高め、職場環境や条件の整備に努めている。 | | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人としての全体研修や各部署での研修を定期的に開催している。参加できなかった職員も議事録を確認し、把握している。 | | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 県内のグループホーム研修や認知症研修に参加し、情報収集やサービスの質の向上に努めている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 静けき邸 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 新規入所時は、細かい声掛けや配慮を行い、安心して生活できるように環境作りに努めている。また、本人の気持ちに寄り添い、話を傾聴したり、これまでの生活の延長に近づくよう、家庭的な雰囲気作りを心がけている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 新規入所時に、家族の要望や不安に思われていることなどを確認し、しっかり話を聞いて不安を解消できるような関係を築けるよう配慮している。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用者様や家族の状態を把握し、要望をもとに必要としている支援について考え、対応し、必要に応じて他事業所に相談するなどサービスを行っている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者様のできることをしていただき、声掛けや見守りを行って、ADLの維持につなげている。また、職員と一緒に家事のできる範囲で行っていただいている。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 定期的に面会にきていただいたり、受診の際に状態の報告したり、本人の訴えがある時には、協力をしていただいている。行事ごとの際は案内し、参加の声掛けをしている。 | | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | デイサービスを訪問し、なじみの方との面会や家族に協力を要請し、行きつけの店に行ったりしている。また、外出や受診の際に自宅に立ち寄りしている。 | 利用者の知人・なじみの方が同法人内のデイサービスを利用しており、訪問して関係が途切れないように支援している。外出や受診の際には、ご家族の協力もあり、自宅やなじみの場所、人との交流が途切れないように配慮している。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | リハビリ体操やグループ活動などに一緒に参加されている。孤立しないように声掛けで参加を促している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 静けき邸 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院されている方の家族に状態を確認したり、面会にいき、様子伺いをしている。また、特養入所者への面会に行ったり、自宅に帰られた方の様子伺いの連絡を行っている。 | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者様の思いや要望を各担当者や管理者を中心に把握し、その思いに答えられるよう話し合ったり、家族に相談し、できる限り対応できるよう努力している。 | 日々の支援の中で、利用者の思いを聞き取れるように配慮している。時には利用者の表情を読み取る工夫もこらしている。ご家族にも協力を仰ぎながら、利用者本位に検討している。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時や日々の中で、これまでの暮らしのことや生活歴について利用者や家族に話を伺っている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 月1回の会議や朝のミーティングなどで、情報の共有や状態の把握に努めている。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 月1回の会議や朝のミーティングで利用者の思いや状況を各担当者を中心に話し合い、意見を出し合って個人に合わせた対応を行いながら、介護計画にも生かしている。 | 利用者の担当者を中心に、全職員で話し合っている。24時間生活変化シートを用いることで、利用者本位の介護計画の作成に生かしている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々のケース記録や業務日誌以外に、気づきや訴え、普段と違う様子が見られたときには連絡ノートに記載し、他の職員に伝達したり、朝のミーティングで報告し、介護計画の見直しに活かしている。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 同敷地内の特養やデイでの行事に参加したり、地域に行事に参加や見学を行ったり、楽しみにつながる支援をしている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 静けき邸 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の美容師さんや病院、地域の商店とのつながりを大切にしている。 | | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診は、かかりつけ医を受診し、継続的な医療を受けられるよう支援している。家族の希望や必要がある場合は、主治医より紹介していただき、受診している。 | 利用者や家族が希望のかかりつけ医への継続的な支援をしている。家族が対応できない時の支援も、入居時に説明している。かかりつけ医との連携もできている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 状態の変化や異常に気付いたら、すぐに職場内の看護師や併設の特養看護師に報告、相談して対応し、受診を行うなど、健康管理に努めている。 | | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した際、病院に情報提供表を提出し、必要に応じて連絡や報告を行っている。また、様子伺いの面会や状態把握を行い、本人の様子や退院のめどなど情報収集し、退院前のカンファレンスにも参加している。 | | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取りについては行っていないので、重度化した場合や緊急時の対応について、入所した際や面会の際に確認を行い、事業所でできることを説明している。 | 看取りについての研修は行われているが、現在なされていない。ご家族の来訪時に、重度化した時の対応を確認している。 | 重度化した場合、入居時・来訪時に家族に確認をしている。緊急時、また、重度化した場合の文書化の取組をさらに期待したい。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員は、事業所内や法人内での定期的な訓練に参加し、緊急時の対応に備えている。 | | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、法人内の合同避難訓練や防災訓練に参加し、避難場所や避難経路の把握を行っている。グループホームだけの避難訓練は行っていない。 | 敷地内にある特別養護老人ホームと日程を合わせて行っている。消防署の協力を得て、避難場所や避難経路の確認も定期的に行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 静けき邸 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの人格に合わせた声掛けや対応を行い、プライバシーにも配慮している。 | 利用者の人格に配慮できるように、研修を行っている。利用者一人ひとりに合わせた対応で、誇りを傷つけないように配慮している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人が話しやすく、言いやすい環境や雰囲気作りを行っている。また、様々な選択肢の中で、自己決定できるように働きかけている。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の本人の状態や訴えに合わせて、本人の希望に添えるよう支援している。また、本人のペースにあわせて対応している。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節に合わせた衣類や本人の選んだ衣類を着用し、おしゃれができるよう支援している。お化粧や身だしなみのお手入れも、本人に合わせて行える環境づくりに配慮している。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 本人ができることを無理のない程度にしている。ただきながら、一緒に食事の準備や片づけを行っている。本人の嗜好に合わせて味付けや量の調整を行っている。 | 職員は利用者と食材を共に見て、献立に参加できるように支援している。調理やテーブルの準備、後片付けなど、利用者もできることには参加している。食事介助の必要な方にも配慮がなされており、調査当日、「最高にうまいね～」の声と共に笑い声が絶えず、職員と共に食事を楽しんでいる姿が見られた。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分量をチェックし、捕食をしたり、好みの飲みものや嗜好品で対応し、補っている。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアが自立している利用者もいるが、職員の確認や仕上げ磨きを行っている。必要な方には、歯科訪問診療を依頼し、治療や清潔保持の管理指導を行っている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 静けき邸 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄のパターンをチェック表で確認し、定時の誘導やパット交換を行っている。退院後、オムツ使用の方に日中はトイレ誘導を行っている。 | 排泄つチェック表を利用しながら、利用者へさりげないトイレ誘導を行っている。退院後のおむつ使用の利用者を、日中だけでも外せないか努力している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | なるべく自然排便できるように、十分な水分補給や運動、牛乳を勧めている。また、オリゴ糖やさつまいもなど排便しやすい食品を提供している。 | | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 2日に1回の入浴を基本としているが、一人ひとりの希望や習慣に合わせて入浴を行い、無理強いはいしない。入浴の際は、一人ひとりゆっくり入浴できるように配慮している。夜間は希望がなく入浴していない。 | 利用者の希望の時間に合わせ、ゆっくりと時間をかけて入浴支援が行われている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 本人のペースに合わせて自由に休息されている。清潔でゆっくり休めるように寝具の交換や日光消毒、静かな環境に配慮している。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 看護師が分薬を行い、みんなで確認して一人ひとりの内服薬の内容や目的・用法について把握している。状態に変化がある時は、看護師や家族に相談し、病院に報告や相談、確認を行っている。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個人の性格や能力に合わせて、できることを行っている。家族の差し入れや本人の嗜好品は、居室でみんなにみえないところで食べていただいたり、外食などの気分転換の支援も行っている。 | | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 年に数回であるが、普段行けないようなところへ遠足に出かけたり、本人の希望にそって外出支援を行ったり、家族に協力を依頼している。 | 一人ひとりの希望を聞きながら、ご家族の協力を仰ぎ支援している。また、日向の港まつりに行きたいとの希望があり、利用者の外出支援に前向きに取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 静けき邸 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現金は、管理者が預かっているが、本人の希望や家族の承諾を得た場合には、必要な分だけ本人にもたせている。買い物や病院の際には、本人より支払いをしてもらい、領収書を家族に確認していただいている。 | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望時や、定期的に電話をしたり、手紙やはがきの支援をしている。 | | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホールや廊下に季節に応じた花を飾ったり、共同で作成した作品や写真を掲示している。また、状況や利用者の希望に応じて、音楽を流している。 | 共用空間には、季節を感じる草花や飾りが置かれ、利用者が居心地良く過ごせるように配慮している。浴室は広すぎず、利用者が安心して利用できるように工夫している。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールやソファで他の方と話をしたり、マッサージ機に腰をかけたりと一人ひとりがゆっくり過ごす空間が決まっている。 | | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れたものや家具を持参し、本人が居心地よく過ごせる空間の工夫をしているが、家族の希望により、家具を押し入れにいれて危険がないようにしている方もいる。 | 利用者の使い慣れたたんすや思い出の品が持ち込まれ、居心地良く過ごせるように工夫している。家族の写真なども飾られ、落ち着いて過ごせるように配慮している。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物内部は、バリアフリーになっており、廊下は歩きやすい幅で施設内を回れて歩行訓練ができます。トイレは各邸に3つあり、本人の利用するトイレが大体決まっています。 | | | |